

児童“すご技”に興味津々

中津川市で地元企業見学始まる

企業見学は、児童、生徒に地元企業の優れた技術を紹介し、将来の進路選択につなげよと初めて開催。本年度は12月6日までに苗木、高山、西、坂下の各小学校の児童が、同社と鈴木工業(同市駒場)を見学する。眼鏡フレームを一貫生産で手掛ける恵那眼鏡工業では、児童が丹羽大祐社長らの案内で工場内を見学。綿花を原料とする

■ 苗木小の5年生 ■

眼鏡製造工程学ぶ

中津川市内の児童が、地元企業の「すご技」に触れる企業見学が18日始まり、同市苗木の苗木小学校の5年生46人が同所の恵那眼鏡工業を訪れ、樹脂の板から眼鏡ができるまでの工程を学んだ。(有我友香理)



眼鏡ができるまでの工程を見学する児童＝中津川市苗木、恵那眼鏡工業

板が、機械で曲げたり削ったりして成形された後、パッド貼りや組み立て、磨き、検査といった手作業を経て箱詰めされるまでの工程を、興味津々な様子で見学した。児童は「1日何個作っていますか」などと質問し、丹羽社長は「700〜900個を製造している。年間に18万〜19万個を目標にしている」と答えた。